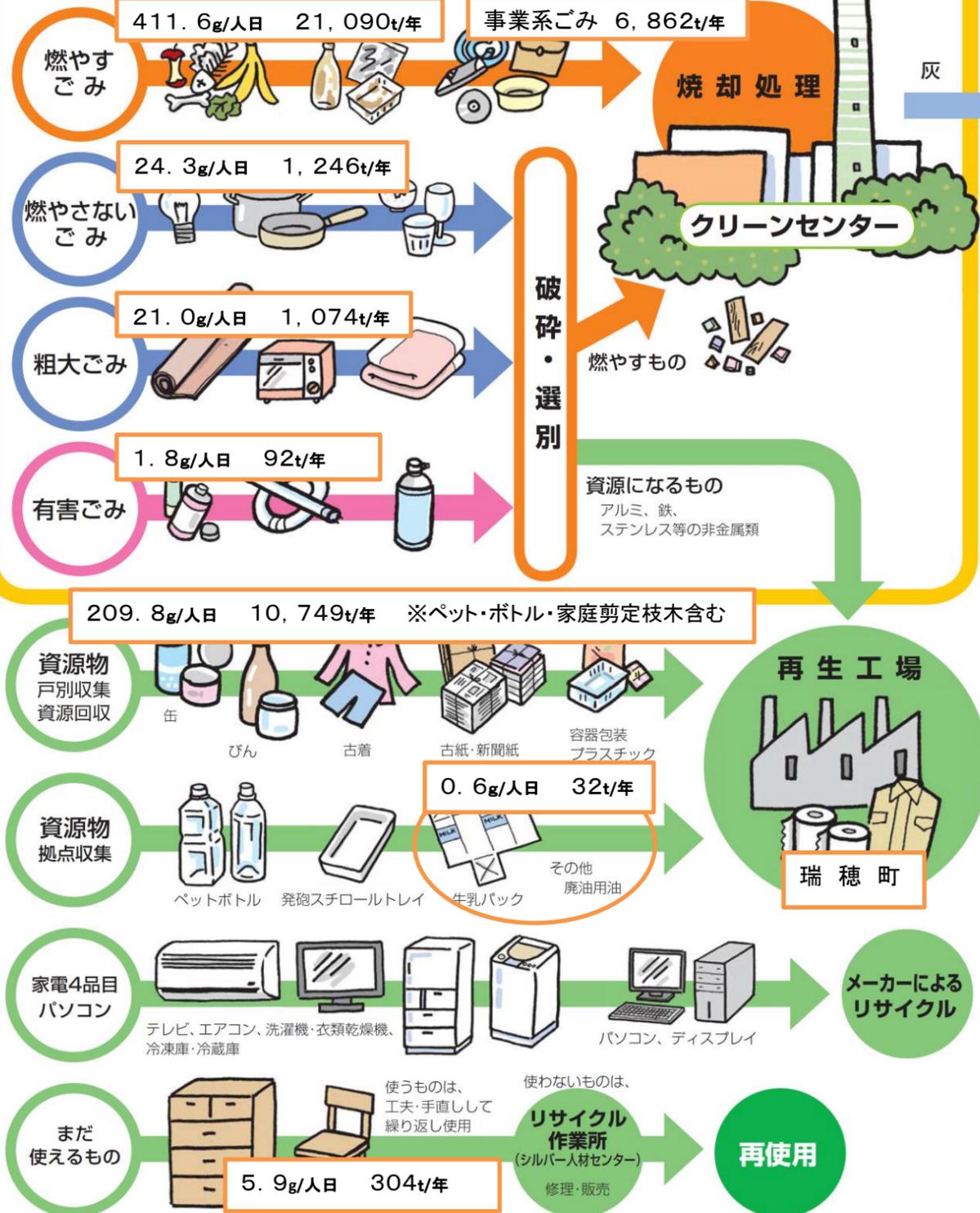


武蔵野市のごみのゆくえ

多摩地域の平均 614g/人日
 家庭系ごみ量: 675g/人日 34,587t/年

武蔵野クリーンセンター

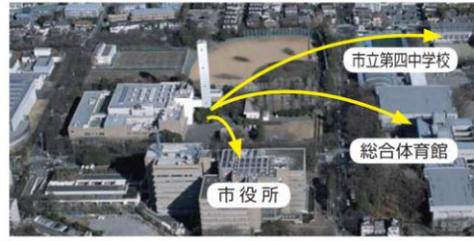
クリーンセンターは、市民が出したごみを、周辺環境や地球温暖化について配慮しながら、日の出町の最終処分場や再生工場に運ぶための「中間処理」を行っています。



熱利用

熱利用について

排ガスの温度を下げるための廃熱ボイラから発生した蒸気を、地下に埋設してあるパイプを通して、隣接した市役所と総合体育館に送り、それぞれの施設で熱交換を行い冷暖房に用いています。さらに市営プールと市立第四中学校の温水プールの熱源としても利用しています。これにより、市庁舎や総合体育館、市立第四中学校の電気や燃料の使用量を減らしています。



※平成29年稼働予定の新施設では、蒸気による発電を行います。

最終処分場

西多摩郡日の出町
ニツ塚最終処分場



ニツ塚最終処分場とエコセメントプラント(右側)

満杯に近づく最終処分場の延命化

昭和55年に多摩地域の市町が集まって「東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合(平成18年4月から「東京たま広域資源循環組合」)が設立され、昭和59年から日の出町の「谷戸沢処分場」に焼却灰や不燃残渣を搬入していましたが、平成10年には満杯になりました。その後、同町内の「ニツ塚最終処分場」に搬入することとなりましたが、平成16年末で約4割が埋まりました。「ニツ塚最終処分場」が満杯になると、次の用地はまったくありません。



エコセメント事業への取り組み

このような状況の中、平成18年度からは、焼却灰を原料にしたエコセメント事業が本格的に稼働し、循環型ごみ処理システムを目指すとともに、処分場の延命化をはかっています。ごみを原料としたエコセメントは、重金属類が溶け出さないことが確認され、今では構造物や土木建築材などに広く使用されるようになってきました。



クリーンセンターの事務棟入り口には、エコセメントでできたベンチがあります。

都市鉱山開発事業—小型家電のリサイクル

平成23年度から、電子レンジや掃除機などの小型家電のリサイクルに取り組みはじめました。これまでは、燃やさないごみとして、破碎、選別処理し、回収した鉄とアルミを有価物として売却していました。小型家電を破碎する前に職員の手作業により分解し、モーター、基板、コード類などに選別することで、さらに質の高い有価物として売却することができます。ごみ減量、資源化量増加だけでなく、これまで回収しきれなかった銅や銀も回収できるようになり、まさに都市鉱山の発掘といえるのではないのでしょうか。

平成24年度からは、小型家電の分解作業を障害者の働く場として発展させています。

